

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	21111		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職入門B		担当者名	久田 孝			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教師という仕事は、成長途上にある無限の可能性を秘めた子どもたちを、教え、育み、そして自分自身も子どもとともに学んでいく、非常にやりがいのある職業である。しかしながら誰もがすぐにできる仕事ではない。「教職入門」では、教師を目指す入り口となる科目であることから、本授業は、漠然と教師になりたいと考えている学生に、専門職としての教職の内容、その難しさと厳しさ、そして、よるこびややりがいを、実際の学校現場での実践、実例を通して学んでいく。これまでの学ぶ（学習者）側から、教える（教授者）側へと視点を変えて学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 将来教師となった時、即戦力として通用するための基本的な資質・能力を身につけることができる。2. 自身が本当に教師に向いているのかなどの適性についても、自らを振り返りながら、明らかにし、教師への意欲を言語化することができる。3. 学び続ける教師としての学び方を身につけることができる。

<授業の方法>

各章のテーマに沿って、必要に応じて、それぞれの学校現場で教職経験をもった教員が指導補助に入りながら講義を行っていく。必要に応じて参考書を提示したり、プリントを配布したりして補完していく。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、次週の指導内容のキーワードの下調べ、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。前回の内容、もしくは事前学習の内容についての毎時間小テストを行う。（ノートへのまとめ記載・毎回1時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてレポートにまとめ提出。（毎回1時間程度）※レポートはWordで作成し、翌日の17:00までに所定のDropboxに投函すること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6（高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。）と関連付けられている。現代日本の初等教育に関する幅広い知識を修めるだけでなく、次世代をになう教育者として学び続ける姿勢や思考力、実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義に臨む意欲・姿勢・態度 30%、レポート・小テスト 70%※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力である。「教職入門」、においては各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義中における姿勢を重視して評価する。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼす。

<教科書>

中田正浩・代表編著2020, 4

『新しい視点から見た教職入門』

大学教育出版「渡邊 正樹 2020, 3, 27」「女性スポーツ研究センター 2020, 12」

「学校安全と危機管理」「女性アスリートダイアリー2021」

「大修館書店」「大修館書店」文部科学省 2010, 3生徒指導提要教育図書

<参考書>

梶田叡一 2010, 8

改訂 実践教育評価辞典

文溪堂梶田叡一 2012, 8

教育フォーラム50<やる気>を育てる

金子書房日本学校メンタルヘルス学会 2017, 9

学校メンタルヘルスハンドブック大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	本授業の目的、目標、計画、講義の概要、指導方法、授業におけるルール、評価方法についての説明
2	教職への道	①教育とは何か、先生とは何かを考える。②教職へ向けてこれからどのようなことを学び、準備していくのか、日本の教員養成制度を理解する。
3	求められる教師像	教師（学校）をとりまく社会の状況から、求められる教師像とそのための資質能力を理解する。
4	教師の仕事（1）～小学校～	小学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
5	教師の仕事（2）～幼稚園～	幼稚園教諭の1日（業務内容）を理解する。
6	教師の仕事（3）～中学校・特別支援学校～	中学校・高等学校・特別支援学校教諭の1日（業務内容）を理解する。
7	資質能力の向上をめざした研修	教員研修の目的、目標、内容、方法について知る。
8	教員の身分と服務	服務の基本基準、特徴、監督、職務上の義務、身分上の義務、身分保障について理解する。
9	学級経営	学級づくりの原理と方法について実践事例をもとに理解する。
10	生徒指導	生徒指導上の諸問題と指導のあり方（予防と対処）を理解する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

11	学校教育と社会教育	①学校教育と学校外で行われる教育とのちがいについて考え、学校とは何かを理解する。②校務分掌、職員会議など、学校の組織について理解する。
12	教員採用試験	①教員採用試験とは何か、求められる人物、試験の特徴を知る。②採用試験合格のために準備することを知る。
13	教育実習	教育実習をはじめとするインターンシップの目的、内容、方法、そして実習生として必要とされるルールとマナーについて理解する。
14	教員の問題行動とメンタルヘルス	①教職員の不祥事、教師の精神疾患の事例から、メンタルヘルスのあり方を考える。②不適格教員の事例をもとに、教師としての適性を見つめ直す。
15	まとめ	①これまでの学びをふり返り、内容を整理する。②教員免許取得と教員採用試験合格に向けて、見通しをもつ。

科目コード	21323		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	総合的な学習の時間の指導法 (初等)		担当者名	三堀 仁			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

総合的な学習の時間の特徴は、学習指導要領にも示されているように、各学校において目標・内容を定めるところにある。このことは、教師一人一人にカリキュラム開発をする力が求められていることにはかならない。本科目では、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編をもとに、総合的な学習の時間の特徴や目標及び内容などについて具体的な事例も紹介しながら説明し、総合的な学習の時間の全体計画や単元指導計画を作成する手順や単元展開にあたっての指導方法のポイントを理解できるようにする。また、現代的な課題をどのように取り入れるかについて、ESDや幼小連携を例に説明する。さらに受講者が自分たちで単元開発を行い、カリキュラムデザイナーとしての力をつけるようにする。

<授業の到達目標>

総合的な学習の時間においては、教師にカリキュラム開発する力と探究的な学習を行う指導力が求められる。したがって以下の点を修得することを目指す。1. 総合的な学習の時間のカリキュラムの特性を理解し、単元を開発することができる。2. 探究的な学習過程を理解し、指導計画を立てることができる。3. 授業改善の方法を身に付ける。

<授業の方法>

授業の始めは事前課題をもとにした意見交換等（20分）、次に学習指導要領解説総合的な学習の時間編のポイントを確認しながら読み進め（30分）、教員による具体的な事例の紹介と意見交換等（30分）を行う。授業の最後に本時の授業のポイントを受講者がまとめ（10分）、提出することを基本とする。学習指導要領をよく理解することと、教師による単元開発が特に重要であるため、この点を意識した授業形態とした。指導案の作成の際にはデジタルツールを活用するとともに、単元計画の中にICTを活用できるところはないかという点にも意識させるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次時の授業に関連する「学習指導要領解説総合的な学習の時間編」のページに目を通し、疑問点は整理しておく（1時間程度）。復習：本時の授業内容について、整理したり理解を深めたりする（1時間程度）。整理したノートは全授業の最終週に提出する。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業中への参加度40%、授業での意見交換・リフレクション30%、レポート等30%

<教科書>

文部科学省（平成30年2月28日）
「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説総合的な学習の時間編」
東洋館出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション・総合的な学習の時間の目標	総合的な学習の時間の系譜や特徴について理解し、授業の概要を把握することができる。
2	総合的な学習の時間の内容	総合的な学習の時間における内容について理解する。
3	総合的な学習の時間の指導計画の作成	総合的な学習の時間の指導計画の作成について理解する。
4	総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の作成	総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画について理解する。
5	総合的な学習の時間の学習指導	総合的な学習の時間の学習指導について理解する。
6	総合的な学習の時間の評価・体制づくり	総合的な学習の時間の評価・体制づくりについて理解する。
7	総合的な学習の時間と学級づくり	実践事例をもとに総合的な学習の時間と学級づくりとの関連について理解する。
8	総合的な学習の時間と教育課題	実践事例をもとに総合的な学習の時間による教育課題への対応について理解することができる。
9	総合的な学習の時間と異校種間交流	実践事例をもとに総合的な学習の時間による異校種間交流について理解することができる。
10	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	総合的な学習の時間のカリキュラム開発を行うことができる。
11	総合的な学習の時間の単元計画案の作成	総合的な学習の時間の単元計画案を作成することができる。
12	総合的な学習の時間の本時案の作成	総合的な学習の時間の本時案を作成することができる。
13	総合的な学習の時間の単元・本時案の改善	単元・本時案を検討・修正し、より良い授業づくりのための改善を図ることができる。
14	総合的な学習のカリキュラム改善	単元・本時案の改善をもとに、PDCAを意識したカリキュラム改善を行うことができる。
15	まとめ	総合的な学習の時間の特性を理解し、指導法を理解することができる。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	21208		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	特別活動の指導法(初等)		担当者名	福政 武彦			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、特別活動の意義や内容、指導法についての理解を深め、併せて、特別活動の現状や課題を踏まえて、活性化の具体的な提案を行う実践的指導力の育成を目的とする。

<授業の到達目標>

1 特別活動の全体目標を歴史的・現代的視点から理解する。2 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれにおける目標と内容、実践例について理解する。3 学級活動の指導案を書き、指導案に基づいて模擬授業や発表を行うことにより実践的指導力を身に付ける。

<授業の方法>

テキストを中心とし、必要に応じて資料プリントを配布しそれに基づいて授業を進めます。講義内容に関する小テストや授業後のレポートを適宜課します。講義形式だけではなく、模擬授業やグループワークを行います。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、重要語句の意味を一通り理解する(1時間程度)。・授業内容の確認テストの準備をする(1時間程度)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー4(周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。)及びディプロマポリシー7(子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。)と関連付けられている。特別活動の意義や内容、指導法についての理解を深め、併せて、特別活動の現状や課題を踏まえて、活性化の具体的な提案を行う実践的指導力の育成を目指している。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲 30%、レポート課題・グループワークへの参加 25%、試験 45%とする。

<教科書>

文部科学省(2018/2/28)

小学校学習指導要領解説 特別活動編

東洋館出版社文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター(2019/1/17)

みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)(特別活動指導資料)

文溪堂

<参考書>

杉田洋(2017年11月)

新学習指導要領の展開 特別活動編

明治図書

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション特別活動の今日的意義について	授業の進め方、評価方法等について理解する。特別活動についての最近の話題から、特別活動の意義を理解する。
2	特別活動とは何か	特別活動の特質・教育的意義について、考察する。それぞれの特別活動の経験と学びについて、討論する。
3	教育課程と特別活動	特別活動の目標・内容・特質などの基本的性格について考察する。明治以降の特別活動の変遷について考察する。
4	生徒指導・人間関係づくりと特別活動	生徒指導と特別活動との関連を考察する。また、子どもたちの人間関係に関わる今日の課題について考察する。特別活動における望ましい人間関係づくりについてグループ討論を行う。
5	キャリア教育と特別活動	キャリア教育の要としての特別活動について考察する。特別活動における児童の人間関係形成やキャリアプランニング力の育成についてグループ討論を行う。
6	特別活動の指導と実践①—学級活動—	学級活動の目標と内容について、考察する。指導計画と学習指導案の作成と授業の展開についてのグループ活動を行う。
7	特別活動の指導と実践②—児童会活動—	児童会活動の目標、内容について考察する。指導計画と指導上の配慮事項についてグループ討論を行う。
8	特別活動の指導と実践③—クラブ活動・学校行事—	クラブ活動及び学校行事の目標、内容について考察する。指導計画と指導案の作成、指導上の配慮事項についてグループ活動を行う。
9	学級活動の実践プラン作成①	グループで学級活動の実践プランを作成する。
10	学級活動の実践プラン作成②	グループで学級活動の実践プランを作成し、仕上げる。
11	学級活動の実践プラン作成③	グループで学級活動の実践プランを発表する。
12	特別活動の指導計画と評価	指導計画と教育課程の関係、計画種類とその立て方等について考察する。
13	学校行事の実践プラン作成①	グループで学校行事の実践プランを作成する。
14	学校行事の実践プラン作成②	グループで学校行事の実践プランを作成し、仕上げる。
15	学校行事の実践プラン作成③	グループで学校行事の実践プランを発表する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	21210		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	生徒指導・進路指導論(初等)		担当者名	浅田 栄里子			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

生徒指導・進路指導は、教科指導と並んで教師の行う教育活動において重要な位置を占める。本科目では、他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることを目的とする。

<授業の到達目標>

1 生徒指導の意義や原理を理解することができる。2 すべての児童を対象とした学級、学年、学校における生徒指導の進め方を理解することができる。3 児童の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。

<授業の方法>

事前に指定された教科書の範囲を読み、事前課題に取り組んでいることを前提として、必要に応じて資料を配布し、それらに基づいて講義を進める。講義後にレポートを作成し提出することを、事後課題として課す。授業形態は、課題に対するグループ討論、グループワーク等（オンラインを含む）を含み、その成果発表を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題を期限までに提出する。：1時間程度・授業後はレポート課題に取り組むことで、授業内容の整理を行う。：1時間程度・適宜小テストを実施するので、復習をしっかり行っておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付けることを目的とする科目である。教育経営学科のDP2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子どもの理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」、DP7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・意欲（グループワークへの参加態度等）30%、課題レポート30%、定期試験40%

<教科書>

安達未来・森田健宏編著（2020年4月30日発行）
よくわかる！教職エクササイズ 生徒指導・進路指導
ミネルヴァ書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション生徒指導とは	授業の進め方と、生徒指導の意義について
2	生徒指導の意義と原理	時代の変化により複雑化・多様化する児童をめぐる様々な課題について討論し、生徒指導の重要性を理解する。
3	教育課程と生徒指導	学校教育の中での生徒指導の位置づけと目的、意義と役割について考察する。
4	学校における生徒指導体制の確立と評価	学校における生徒指導体制の基本的事項についての考察を行う
5	生徒指導に関するさまざまな法や制度と規範意識の育成	学校における懲戒と体罰の関係、その背景としての法令の理解について、考察する。
6	児童の発達に応じた生徒指導のあり方	児童理解について、その意義と方法を理解し、その上での指導について考察する。
7	個別の課題を抱える児童への対応①	発達障害のある児童への対応を中心に、特別な配慮を必要とする児童への生徒指導について、考察する。
8	個別の課題を抱える児童への対応②	非行問題を中心に子どもたちの問題行動の背景をとらえ、対応の在り方について、ケーススタディにより、グループ討論を行う。
9	個別の課題を抱える児童への対応③	不登校問題を中心に子どもたちの問題行動の背景をとらえ、対応の在り方について、ケーススタディにより、グループ討論を行う。
10	個別の課題を抱える児童への対応④	いじめ問題を中心に子どもたちの問題行動の背景をとらえ、対応の在り方について、ケーススタディにより、グループ討論を行う。
11	教育相談と生徒指導、学校内および家庭・地域・関係機関との連携	学校と地域が連携した生徒指導のあり方について考える。医療、福祉、社会教育との連携についても考察する。
12	キャリア教育を生かした現代の進路指導のあり方	発達障がいのある児童への対応を中心に、特別な配慮を必要とする児童への生徒指導について、考察する。
13	進路指導およびキャリア教育の課程と指導体制	小学校における進路指導・キャリア教育の重要性について考察する。
14	職業理解やキャリア意識を育むカリキュラムの構築と、ガイダンス、キャリア・カウンセリングの考え方と実践	学校と家庭、地域が連携したキャリア教育の在り方について、グループ討論を行い、発表する。
15	まとめ	全体のまとめ

科目コード	21325		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	道徳教育の理論及び指導法(初等)		担当者名	伊住 継行					
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、小学校における道徳教育の内容や指導法について理解し、小学校の教員として確実に道徳教育の実践を行うために必要な指導力を育成することをめざす。現在、児童の自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることなど、児童に道徳性が十分身につけていないことが指摘されている。こうした点からも小学校における道徳教育は極めて重要であり、豊かな人間性を育成するための指導力の向上は不可欠のものであると考える。

<授業の到達目標>

特別の教科道徳を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義と目標を踏まえ、道徳教育や道徳科の授業の内容と方法について基礎的な知識を学ぶだけでなく、学習指導案の作成や模擬授業の実施等に取り組むことによって実践的指導力を培うことができるようになる。

<授業の方法>

課題や資料配布はGoogleクラスルームで行う。また、適宜、Googleドキュメントやスプレッドシートを活用し、意見交流を行う、そのつもりでノートパソコンなどのデバイスを準備する。授業では、道徳教育の概要や道徳科の指導方法について理解したことをレポートにまとめたり、グループワークで考えを伝え合ったりしながら理解を深める。また、実践的指導力の向上を図るために道徳科の学習指導案を作成する。さらに、道徳科の模擬授業を行い、授業づくりのポイントについて議論する。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前：講義内容の概要を自分なりに把握する努力を行うと同時に、疑問点等を探しておく。(1時間程度) ・事後：その日の授業内容を振り返り、理解しにくかった点等については次の時間に質問を行う準備をしておく。(1時間程度) 授業で学んだことを基に道徳科の学習指導案を作成する。(1～2時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー6(高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。)とディプロマポリシー7(子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)と関連付けられている。道徳教育や特別の教科道徳のねらいや特質を踏まえた指導法について学ぶことを通して、上記のディプロマポリシーに示されている資質・能力を養うことをめざす。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

受講態度・レポート 30%、指導案・模擬授業等 30%、試験 40%

<教科書>

文部科学省(2018/2/28)
 小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年7月)
 東洋館出版社文部科学省(2018/3/1)
 小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編(平成29年7月)
 廣済堂あかつき

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校における道徳教育	学校における道徳教育の意義
2	道徳教育の歴史	戦前・戦後における道徳教育の変遷と課題
3	道徳教育の目標	教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と特別の教科道徳の目標
4	道徳教育の内容	道徳教育の指導内容と発達に即した内容の系統
5	道徳教育の指導計画(1)	道徳教育の全体計画の意義と内容、全教育活動における道徳教育の活動の具体的な指導例及び家庭・地域との連携の内容と活動の具体例
6	道徳教育の指導計画(2)	特別の教科道徳の年間指導計画の意義と内容
7	道徳の授業の実際	道徳の授業の視聴と授業分析
8	道徳の授業の組み立て方(1)	道徳の授業の構想、実態に基づく資料分析とねらいの設定
9	道徳の授業の組み立て方(2)	道徳の授業の指導過程と発問の組み立て方
10	学習指導案の作成(1)	道徳科の学習指導案の作成
11	模擬授業(1)	デジタル教科書を用いた模擬授業の実施と道徳科の特質を踏まえた授業展開についての議論
12	道徳の授業の組み立て方(3)	教材分析及び道徳の授業の指導過程と発問の組み立て方
13	学習指導案の作成(2)	道徳科の学習指導案の作成
14	模擬授業(2)	模擬授業の実施と道徳科の特質を踏まえた授業展開についての議論
15	児童理解に基づく道徳教育・道徳科の評価	道徳教育・道徳科における評価の方法と内容

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	21317		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育方法・技術論(初等)		担当者名	中西 紘士、前田 一誠 高橋 純一、福政 武彦			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学習指導要領においては、児童・生徒に「生きる力」をはぐくむこと、つまり、基礎的・基本的な知識と技能の確実な習得と、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成が各教科で目標とされた。この目標は、授業を通して達成されるもの、その授業を支えるものの1つが、教師の「方法・技術」にある。本科目では、実践例をもとにした、方法・技術の具体について学んでいく。

<授業の到達目標>

実際の授業場面において必要となる子どもとの対応に関する方法・技術や教師の指導支援のための方法・技術などを取り上げ、身に付くようにする。受講者による指導プランの作成とその特徴等に関する意見交流も取り入れていく。

<授業の方法>

具体的な方法・技術の例示と演習の繰り返しにより実践力の向上を目指す。単なる一方的な講義ではなく、授業への参画と討論、さらに受講者の模擬授業やPCを活用したプレゼンテーションによる演習を中心とする。意見交換を通して、教育方法・技術について理解を深める。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：翌週の指導内容の下調べ(ノート) 復習：振り返りレポート(主体性、内容の理解、取り扱った方法・技術に対する見解など) 提示・配布された資料や指導案、教材研究の記録等を整理してまとめ、折に触れて読み返したり、練習したりすること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー(情報機器や教材の活用法を含めた教師の方法・技術論の基本を理解するとともに、それらを適用・応用できるようになることと関連している。子どもの実態、教科内容等を理解した上で、授業を構成し、実践するための基礎的・基本的な素養を理解し、身につけるための科目である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

課題への取り組み、レポート 60%、受講者による模擬授業や意見交換 40% 積極的な話題提供や意見発表は、成績に加算される。

<教科書>

平沢茂 編著

『改訂版 教育の方法と技術』

図書文化

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の目的、進め方、評価方法についての説明
2	教育方法・技術の内実、変遷、重要性	教育方法・技術についての概要(内実・変遷・重要性)を理解する。
3	方法・技術の具体(1)	教師のほめ方・叱り方について
4	方法・技術の具体(2)	教師の話し方・きき方について
5	方法・技術の具体(3)	ルールについて
6	表現教育と教育方法・技術(1)	表現教育における教育方法・技術論とはどのようなものがあるか、経験をもとに想像し、意見交流する。
7	表現教育と教育方法・技術(2)	表現教育(アウトリーチ活動)を参観し、その中でつかわれている方・技術を見つける。※ヤングアメリカンズのキャストによる指導風景を参観
8	表現教育と教育方法・技術(3)	表現教育でつかわれていた方法・技術を分析する。
9	方法・技術の具体(4)	教材の作り方、板書の仕方について
10	方法・技術の具体(5)	ノート、学習プリント等へのコメントの仕方について
11	方法・技術の具体(6)	学習形態について
12	方法・技術の具体(7)	信頼関係の築き方について
13	方法・技術の具体(8)	I C T機器の功罪とその活用法について
14	方法・技術の具体(9)	GIGAスクール構想・プログラミング学習
15	ふり返り	授業をふり返って、基本的な教育方法と技術について整理する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	22202		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	社会の理解		担当者名	高橋 純一			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校社会科の学習指導要領の変遷と目的・内容、それを踏まえた教科の特質の概要、小学校教員（社会科授業者）として授業を行うための基本的素養を身に付ける。そのために教材内容や社会的な見方・考え方について、学習指導要領や教科書の具体的記述や実践事例等もとに学びを深める。あわせて、現代的な課題として社会科教育に求められる内容を取り扱う。学習成果については、社会への関心、参加意欲、社会的な見方・考え方をういた論理的思考力、表現力、協働性、教職への熱意などについて評価する。

<授業の到達目標>

小学校社会科の学習指導要領の変遷と目的・内容、それを踏まえた学習内容と教科としての特質の理解、小学校教員（社会科授業者）として教材研究を深めるための基本的素養を身に付け、社会科の学習指導に主体的に取り組むことができるようになる。

<授業の方法>

指定した教科書、学習指導要領解説社会編、提示する資料を活用しながら、社会科教育についての幅広い考えをもつ授業を目指す。また、学生の着想を生かした教材開発等をまとめることを通して、社会科教育への関心・意欲を醸成するとともに、授業の基礎となる知識・技能の向上をめざす。尚、個人パソコンの持参を必須とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業計画の説明や毎時間の課題提示を踏まえて、資料収集等を行い、目的意識、課題意識をもって授業に臨むこと。毎時間に扱う具体的な単元例を予告するので、関連資料の収集を毎回30分程度させたい。また講義後に自己の学びを振り返り、振り返りフォームの記入等、学びの整理を30分程度させる。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー①③に関連付けられている。「社会科の特質を踏まえた深い学びを理解し、授業実践できる素養」を育成するための基礎科目であり、教職入門期である初年次生に対し、授業動画や課題を通して、グローバルな視点と知識を持ち、多文化・異文化について理解する能力を身に付けさせ（DP1）、社会的な見方・考え方についての確かな認識のもとに、豊かな教養と、現代日本の社会と学校教育に関する幅広い知識と、理解する能力（DP3）を育成する機会を提供する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

出席参加意欲30%、課題内容30%、振り返りレポート20%、最終レポート20%により総合的に評価する。

<教科書>

文部科学省

小学校学習指導要領解説 社会編

日本文教出版社

新編 新しい社会 5下

東京書籍新編 新しい社会 6「歴史編」「政治・国際編」東京書籍

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	社会科を学ぶ意義（オリエンテーション）	授業の概要（目的・内容・方法など）
2	初等社会科教育の意義・目的（1）	学習指導要領の変遷と社会科の位置づけ
3	初等社会科教育の意義・目的（2）	問題解決的な学習の展開と意義
4	今求められている初等社会科教育の在り方（1）	学習指導要領の趣旨と社会科の改訂ポイント
5	今求められている初等社会科教育の在り方（2）	社会科的「見方・考え方」について具体教材を通しての考察
6	今求められている初等社会科教育の在り方（3）	社会科における「主体的・対話的で深い学び」について具体教材を通しての考察
7	今求められている初等社会科教育の在り方（4）	社会科における「思考力・判断力・表現力等」について具体教材を通しての考察
8	初等社会科教育の特質	生活科教育と社会科教育との接続
9	初等社会科教育の内容（1）	学習指導要領における内容の改善点の理解 第3学年
10	初等社会科教育の内容（2）	学習指導要領における内容の改善点の理解 第4学年
11	初等社会科教育の内容（3）	学習指導要領における内容の改善点の理解 第5学年
12	初等社会科教育の内容（4）	学習指導要領における内容の改善点の理解 第6学年
13	初等社会科教育の新たな課題（1）	「主権者教育」についての考察と理解
14	初等社会科教育の新たな課題（2）	「国際理解教育」についての考察と理解
15	「社会の理解」まとめ・レポート	授業の総括及びレポート、「授業評価アンケート」の実施

科目コード	22103		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	美術の理解		担当者名	村上 尚徳			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、美術に関する基礎的な知識や技法などについての理解を深めるとともに、造形指導能力の育成を目的とします。授業においては、色彩や構成、美術文化などに関する基礎的な知識と、絵の具などの技法や技能を身に付けるとともに、美術教育の意義や役割などについて学習をします。美術や美術教育に関する知識と、児童に指導できる基礎的な技能を身に付けることを、学習成果とします。

<授業の到達目標>

1. 色彩や構成などに関する知識、絵の具の技法、絵を描く技術などを身に付けることができる。2. 生活の中の美術や美術文化、美術や美術教育に関する考え方について理解を深めることができる。

<授業の方法>

1. 資料の読解や作品鑑賞、美的体験を基にした、グループワーク。2. 美術や美術教育に関する基礎的知識を理解するための講義。3. 実技による技法や技能の習得、作品の制作及び発表。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 授業前は、事前の資料読解と指示された準備物（資料、材料、用具等）の用意を行う。（1時間程度）2. 授業後は、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマ・ポリシー2（専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。）と関連付けられています。美術に関する知識・技能を修め、子供理解に基づいて学習指導を実践するための基礎的な力を育成することを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート 40%、定期試験 40%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

配布資料により授業を進める。

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	美術の多様性	美術とは何か、美術を学ぶ意義等についての理解
2	見ることと描くこと	見る力と表現する力の関連についての理解
3	造形についての理解	造形要素・造形原理の理解（色彩、構成美の要素）
4	形と色彩による表現(1)	絵の具の扱い（絵の具の水加減、色相環の作成）
5	形と色彩による表現(2)	モダンテクニックの技法の理解
6	形と色彩による表現(3)	モダンテクニックを用いた感情表現（作品の制作）
7	鉛筆による描画の基礎	鉛筆で人物や手を描く
8	水彩絵の具の使い方(1)	水彩絵の具の着彩の基礎
9	水彩絵の具の使い方(2)	水彩絵の具による作品制作
10	美術の幅広い理解(1)	プロダクトデザイン、ことのデザインの理解 (グループワーク)
11	美術の幅広い理解(2)	西洋美術の歴史と絵画の役割 (グループワーク)
12	美術の幅広い理解(3)	日本の美術の理解（屏風絵、浮世絵） (グループワーク)
13	工作の基礎(1)	飛び出すカードの仕組みの理解
14	工作の基礎(2)	飛び出すカードの制作
15	美術の教育と美術による教育	生活や社会の中の美術や美術文化の理解

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	22204		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	運動・健康の理解		担当者名	久田 孝			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の概要は、近代化に伴い社会環境や人々の生活様式は大きく変化、価値観も多様化、このような中で近年、子どもの体力は長期的に低下傾向にある。その解消において生涯にわたって心身ともに健康的に生きていくための基礎的なからだづくりを小学校学習指導要領に基づいて各領域やその特性や楽しむ方法について学んでいく。

<授業の到達目標>

本授業の目標は、健康に対する基礎知識と運動（身体活動）に対する基礎知識を合わせて小学校学習指導要領に基づいて学び、小学校体育科の目標、内容、各運動領域について指導法や考え方など発達段階に応じた、体育の授業を構成していく為の知識や技術を修得することを目的としている。

<授業の方法>

授業では、テーマに沿って理論と実践を並行して行い、レポートにまとめていく。※レポートはWordで作成し所定のDropboxに投函に投函すること。また実技に関しては、必ず運動に適した服装（シューズを含む）で受講。安全面からアクセサリなどの装着は厳禁とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：次時に講義される事柄について教科書を読み、下調べをし自ら積極的に理解を深めておく。（毎回、1時間程度）復習：本時の授業内容を自分の意見も含め、レポートにてまとめ、次週に提出する。（毎回、1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー1、（子どもの学習状況を把握し教科内容等を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本素養）及び3、（豊かなコミュニケーション能力を有し、子どもの未来に対する強い使命感を持ち、教師としての成長をめざし学び続ける力）と関連付けられています。運動と健康にまつわる様々な諸課題を探索し解決していくのに必要な、論理的思考力、的確な判断力、創造的表現力統合した豊かな汎用能力の習得を目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

自ら学び修得しようとする意欲、態度、姿勢 20%、課題レポート 30%、実技試験 50%の到達度評価とする。

<教科書>

文部科学省 2014.6

「小学校学習指導要領解説 体育編」

東洋館出版社高橋建夫 2010.10

新版 体育科教育学入門

大修館書店江口泰正 中田由夫2018.2産業保健スタッフ必携 職場における身体活動・運動指導の進め方大修館書店

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	第1回は本授業のオリエンテーションとし、目標、計画、内容、指導方法、到達目標等の理解を深める。
2	小学校体育科の目標と内容について	小学校学習指導要領 小学校体育科の目標と内容について現代社会の成り立ちから起こる運動不足とその効果について学ぶ。
3	体づくり運動	体ほぐしの運動のように楽しさと心地よさを求める運動と体力を高める為の運動との狙いの違いを実技を通して考えてみる。
4	ボール運動①-1（ゴール型）	ボールゲームからの導入。ミニサッカー、サッカー
5	ボール運動①-2（ゴール型）	ポートボールからの導入。バスケットボール
6	ボール運動②（ベースボール型）	フットベースボールからの導入。ソフトボール
7	ボール運動③-1（ネット型）	ソフトバレーボールから導入。バレーボール
8	ボール運動③-2（ネット型）	卓球・バトミントン
9	陸上運動①（トラック）	リレー・ハードル
10	陸上運動②（フィールド）	三段跳び・五段跳び・走り幅跳び
11	器械運動①-1（マット運動）	器械運動①-1（マット運動）
12	器械運動①-2（マット運動）	技の組み合わせ、連続技の実践
13	器械運動②（跳び箱）	基本技の修得
14	器械運動③（鉄棒）	基本技の修得
15	総括	最終回は本授業を振り返り成果と課題について反省、実践と原理の両面から各種目から見た運動と健康について各自が得た「学び」を確認、その学びを言語化。その為「将来小学校教師として教えたい運動と健康」と言う論題で小論文を作成。将来的な展望を実践に結び付ける。

科目コード	23301		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育相談B		担当者名	浅田 栄里子			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育相談は、児童が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。児童の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）、技能、態度を身に付けることを目的とする。

<授業の到達目標>

1 学校における教育相談の意義と理論を理解できる。2 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解できる。3 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解し、実践力を身に付ける。

<授業の方法>

・事前に指定された教科書の範囲を読んでいることを前提として事前課題を課し、それに基づいて講義を進める。・講義後にレポート等を作成し提出することを、事後課題として課す。・授業形態は、グループディスカッションや、グループワーク等（オンラインを含む）を含み、その成果や取組み姿勢を評価対象とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・予習として、教科書の指定された範囲を読み、事前課題に取り組むこと。（1時間程度）・授業後はレポート課題に取り組むことで、授業内容の整理を行うこと。（1時間程度）・適宜小テストを実施するので、語句の理解を含め復習をしっかりと行うこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

児童の個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）、技能を身に付けることを目的とする科目である。教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子どもの理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」、ディプロマポリシー4「周囲の学校関係者と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている」と関連している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度・学習意欲 30%、授業レポート・小テスト 30%、特別課題 40%

<教科書>

森田健宏・田爪宏二監修（2018年1月30日）
「よくわかる！教職エクササイズ 教育相談」

ミネルヴァ書房

<参考書>

藤田哲也監修（2017年10月30日）
「絶対役立つ 教育相談」

ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション教育相談とは	授業の進め方などについてのガイダンス教育相談についての理解
2	教育相談の意義と校内体制について	教育相談の意義と機能について理解する。校内体制と連携について考察する。
3	カウンセリングの理論	カウンセリングについて、その各種理論の基本を学び、カウンセリングの基本的な考え方について、考察する。
4	カウンセリングの基本的技法	学校カウンセリングの基本的技法を学び、実際に体験ワークを行う。
5	学校における諸問題とその対応①いじめ・不登校への対応	いじめ、不登校の定義と、実態を理解する。いじめ、不登校に対する基本的対応について、考察する。
6	学校における諸問題とその対応②学級崩壊、学級経営の問題への対応	学級崩壊の現状を理解し、学級経営について、考察する。
7	学校における諸問題とその対応③虐待、命の教育への対応	児童虐待の現状とその対応について理解し、命の教育について考察する。
8	学校における諸問題とその対応④非行、学校不適應への対応	非行や学校不適應への理解と対応について、様々な角度から考える。
9	学校における諸問題とその対応⑤発達障害のある児童への対応	発達障害についての基本的知識と、特別支援教育の現状について、理解する。
10	学校における諸問題とその対応⑥心の病についての対応	子どもの困難に寄り添うための基本的な姿勢と対応について、事例を通して学ぶ。
11	校内や専門機関等との連携	校内組織の中での連携や、他機関の専門家との連携について、そのあり方を考える。
12	教育相談におけるアセスメント①行動観察法・面接法	行動観察法、面接法について理解し、他の専門機関との連携を視野にその利用方法を理解する。
13	教育相談におけるアセスメント②心理検査法の利用	各種の心理検査について理解し、その検査結果の見方や、活用方法についての留意点等を理解する。
14	家庭の理解と保護者支援	多様化する家庭の現状と子どもの問題を理解し、保護者対応について考察する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31302		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育評価		担当者名	高橋 直樹			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

この授業は、教育評価の役割や考え方を理解し、教育評価を適切に実践していくために必要な実践力を養うことを目指して行う。具体的には、次の3つの点に留意して授業を行う。(1)教育評価に関する基礎的な用語や考え方を、歴史的な背景も含めて具体的に講義をする。(2)新しい評価の考え方をまとめて解説すると共に、それに基づく評価の方法を丁寧に紹介する。(3)国語科、算数科、道徳科の評価について、事例を交えながら具体的な教育評価の実践について考えを深める。

<授業の到達目標>

教師をめざそうとする学生や教育に興味・関心を持つ学生が、新しい評価について、その歴史的な背景も含めて、理解できるようになる。

<授業の方法>

指定教科書を用いた講義と、課題を併用するスタイルで授業は展開される。また、アクティブ・ラーニングの要素(グループワーク、ディスカッション等)を取り入れ、Google Classroom等のデジタル技術も活用する

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・事前:指定教科書の授業内容を通読し、特に理解が難しいところを予習する。(1時間)・事後:授業で理解したことを自分なりに整理したり、興味・関心をもったことについてさらに学びを深めたりする。(1時間)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のディプロマポリシー2(専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた確かな学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている。)とディプロマポリシー5(情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている。)と関連付けられている。教育評価の基本的な考え方や方法を理解するだけではなく、実際の授業の中で評価を適切に実践することができる実践的指導力を養うことをめざす。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

毎回の授業課題 40%、授業に取り組む姿勢 20%、学期末課題 40%の結果に基づいて評価する。

<教科書>

田中耕治(編)(2010)
よくわかる教育評価[第2版]
ミネルヴァ書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育評価の基本概念	教育評価とは
2	教育評価の立場の変遷	教育評価の機能(診断的評価・形成的評価・総括的評価など)
3	教育評価の位相と展開	到達度評価評価規準と評価規準
4	教育目標と教育評価の関係	ルーブリックなど
5	指導に生かす評価のあり方	指導と評価の一体化カルテと座席表子どもの自己評価
6	教育評価の進め方①	国語、算数、社会、理科における評価
7	教育評価の進め方②	生活科、外国語、音楽、における評価
8	教育評価の進め方③	図画工作・美術、技術・家庭、体育、総合的な学習の時間の評価
9	教育評価の進め方④	道徳、特別活動、障害児教育の評価
10	指導要録・通知表	指導要録観点別評価通知表
11	教育評価の経営(学力調査)	PISA調査全国学力学習状況調査校内研修
12	教育評価の経営(学校評価)	学校評価学校評議員制コミュニティスクール
13	入試制度	大学入試偏差値内申書
14	教育評価の歴史・諸外国の評価	日本における教育評価の歴史諸外国の教育評価制度
15	まとめ	これまでの学びの振り返りと深化・発展

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31400		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校経営と学校図書館		担当者名	浅田 栄里子			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館をどのように運営していくかについて、その具体的な方法を理解することができる。また、学校図書館を活用して行う読書活動や学習等について運営計画を立案するとともに、具体的な指導を指導者の立場として展開することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

あらかじめ資料に目を通しておき、事前課題を提出する。（1時間程度）|授業後には本時に学習した内容の整理定着のための事後課題を提出する。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、課題および提出物 30%、特別課題 40%に基づき評価する。

<教科書>

全国学校図書館協議会監修
学校図書館必携 新訂版
悠光堂

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育法令と学校経営	授業のガイダンスと、学校経営がどのような法令等に基づいて策定されているかを理解する。
2	教育法令と学校図書館	学校教育にかかる様々な法令と学校図書館の位置づけを理解する。
3	学校図書館と学習指導要領	学習指導要領から学校図書館の位置づけを探し、教育課程とのかかわりを理解する。
4	学校図書館の機能と図書標準	学校図書館メディアの種類と、蔵書の標準を知り、学校図書館の機能について考える。
5	学校図書館の運営?	学校図書館運営に関わる業務を理解する。
6	学校図書館の運営?	学校図書館運営計画を作成する?
7	学校図書館の運営?	学校図書館運営計画を作成する?
8	学校図書館の運営?	学校図書館運営計画を作成する?
9	学校図書館の運営?	図書館だよりを作成する?
10	学校図書館の運営?	図書館だよりを作成する?
11	学校図書館の運営?	図書館だよりを作成する?
12	学校図書館の運営?	学校図書館展示の工夫?
13	学校図書館の運営?	学校図書館展示の工夫?
14	学校図書館の運営?	学校図書館展示の工夫?
15	まとめ	学校における学校図書館活用の現状と課題を理解し、図書館運営の心構えをつくる。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31401		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校図書館メディアの構成		担当者名	福政武彦、木戸和彦			○		
配当年次	4	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校図書館は、読書センター・学習センター及び情報センターとしての機能を有している。学校図書館がその機能を十分発揮するためには、学校図書館メディアの構成に関して、収集、組織化、保存、提供などについて司書教諭が理解することが必要である。この授業は学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図ることを目的とする。また、この科目は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

①学校図書館メディアの種類と特性を理解することができる。②学校図書館メディアの選択と収集・構築について理解することができる。③学校図書館メディアの組織化を理解することができる。

<授業の方法>

基本的には講義形式であるが、「日本十進分類法」「日本目録規則」などは演習形式にて授業を行う。毎回の授業でレポート・課題を出題する。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。第15回の講義の中で確認テストを実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

シラバスを参考に当日の授業内容を確認し、参考書またはWeb等で予備知識を学習しておくこと（予習30分程度）。毎回の講義時に、レポート課題を出題するので、次回の講義までに自力で解答しておくこと（復習60分程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目は、学校図書館メディアの構成を学ぶことにより、深い専門性と実践力を身に付けるだけでなく、子ども達への指導力を身に付ける。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー1「子どもの学習状況を把握し教科内容等を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的基本的素養」及び2「発達等の子ども理解に基づいて、的確な学習指導や、生徒指導、学級経営を実践する力」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習状況・受講態度 20%、レポート課題 30%、テスト 50%に基づき評価する。

<教科書>

<参考書>

全国学校図書館協議会監修（2017.9.1）

学校図書館必携

悠光堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校図書館メディアの意義	講義ガイダンスを含む
2	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの種類と特性
3	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（資料の選択、資料収集の方針）
4	学校図書館メディアについて	学校図書館メディアの選択と情報源（収集のための情報源）
5	メディアコレクションの形成	蔵書構築、蔵書評価について
6	学校図書館の責務について	学校図書館の役割について
7	学校図書館メディアの組織化	分類の意義と機能
8	学校図書館メディアの組織化	日本十進分類法について
9	学校図書館メディアの組織化	件名標目表について
10	学校図書館メディアの組織化	日本目録規則について
11	学校図書館メディアの組織化	目録の機械化について
12	学校図書館メディアの組織化	分類と件名作業の実際
13	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の意義
14	多様な学習環境とメディアの配置	学校図書館メディアの配置の演習
15	まとめ・確認テスト	学校図書館メディアの構成の展望

科目コード	31403		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	読書と豊かな人間性		担当者名	浅田 栄里子			○		
配当年次	4	配当学期	集中	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

読書は人間形成において重要な意味を持つものであり、思考力の育成、豊かな心の育み、人間性の発達にかけがえのない営みでもある。読書という活動は、学習者自身の主体性の有無によって成立する。そのために校内の読書センターと積極的な読書推進活動の展開により、児童・生徒の読書の活性化を図る必要がある。そこで、本授業では、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導および活動の方法の体得を目指す。

<授業の到達目標>

1. 読書の目的と役割について理解することができる。| 2. 読書指導の基礎や基本について理解することができる。| 3. 目的に応じた多様な読書活動について理解を深め、実践することができる。

<授業の方法>

オンデマンド授業を進めるが、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業の前には、あらかじめ教科書に目を通しておく。授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり内容について感想を持ったりすることで学習の定着を図る。（1時間程度） また、大学図書館や公共図書館を訪れ、普段から本（特に児童書・YA図書）に親しむようにする。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、教員免許を取得している（もしくは、取得予定）者のみに与えられる学校図書館司書教諭のライセンス講座の一つである。よって、児童・生徒の発達段階に応じた読書指導や活動の在り方と司書教諭の任務について考察し、基本的な指導及び活動の方法体得がなされることが、卒業認定や学位授与と密接に関係している。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び7「子どもの未来に対する強い使命感と責任感を持ち

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 30%、課題および提出物 30%、特別課題 40%に基づき評価する。

<教科書>

「探究 学校図書館学」編集委員会
探究 学校図書館学4「読書と豊かな人間性」
全国学校図書館協議会

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業ガイダンス	講義ガイダンスと人間形成に重要な意味をもつ読書について理解する。
2	読書教育の系譜	日本の読書教育の変遷を理解する。
3	読書指導と学校図書館	学校図書館と学校での読書指導について、法令も含めてその関係性を理解する。
4	子どもの読書環境	子どもの読書の実態と、学校図書館・公共図書館の現状について理解する。
5	発達段階に応じた読書指導	読書能力の発達と、発達段階に応じた読書指導のあり方について、理解する。
6	子どもと本を結ぶための方法?	読み聞かせとブックトーク、ストーリーリング
7	子どもと本を結ぶための方法?	読書感想文と読書感想画、朝の10分間読書
8	子どもと本を結ぶための方法?	読書へのアニメーションとビブリオバトル
9	子どもと本を結ぶための方法?	読書会とリテラチャーサークル
10	子どもと本を結ぶための方法?	紙芝居と読書集会、読書郵便、POPと本の帯の作成
11	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導	各教科での読書指導・探究的な学習と読書指導について、理解する。
12	読書活動の実際?	小学校、中学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
13	読書活動の実際?	高等学校、特別支援学校での読書活動例を知り、その在り方を理解する。
14	読書活動の推進と司書教諭・学校司書	司書教諭、学校司書の職務と読書指導の推進について理解する。
15	まとめ	読書についてその役割を理解し、読書指導の基礎基本について実践的な活動としての理解を整理する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	31402		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学習指導と学校図書館		担当者名	福政 武彦			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育目標の達成のために「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を持つ学校図書館が果たす役割について学ぶとともに、児童生徒の学力における課題を克服するために学校図書館をどのように活用していくかについて実践的に学習を進める。この授業は「学習指導と学校図書館」「学校図書館メディアの構成」「読書と豊かな人間性」「情報メディアの活用」と合わせて、5教科10単位を履修することにより学校図書館司書教諭の資格を得る資格取得教科である。

<授業の到達目標>

司書教諭として学校図書館を活用して行う学習（探究型学習・情報活用能力の育成）等について、指導者の立場として展開する方法を理解することができる。

<授業の方法>

スライド資料やワークシート等を用いて授業を進める。多くの授業において個人で取り組む演習やグループで取り組むワークが中心となるので、主体的に授業に向かおうとする姿勢が必要である。演習ではパソコンを使って資料を作成するので、個人パソコンの持参が必須である。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

資料等を用いる授業の前には、あらかじめ資料に目を通しておく。（1時間程度）授業後には本時に学習した内容について、問題を解いたり演習の内容について個人で再度行ったりして学習の定着を図る。（1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

司書教諭として学校図書館の機能を理解した上で、実際の図書館運営や学校図書館を活用した学習の展開を身につけることにより、学校図書館に関する専門性と実践力を備えた司書教諭の育成を目指す。なお本授業は、教育経営学科のディプロマポリシー2「専門的知識を実践的に修得し、発達等の子ども理解に基づいた的確な学習指導や生徒指導、学級経営力を身に付けている」及び6「高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている」と関連付けられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

学習意欲・態度 25%、課題および提出物 25%、期末テスト 50%に基づき評価する。

<教科書>

<参考書>

文部科学省（2018/2/28）

小学校学習指導要領解説 総則編

東洋館出版社

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス・学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の役割の概要を理解する。
2	学び方の指導の実際1	学校図書館の使い方指導の仕方を理解する。
3	学び方の指導の実際2	図鑑の使い方の指導の仕方を理解する。
4	学び方の指導の実際3	年鑑・百科事典の使い方の指導の仕方を理解する。
5	学び方の指導の実際4	新聞の活用の指導の仕方を理解する。
6	学び方の指導の実際5	インターネットの利用の指導の仕方を理解する。
7	学習指導に生きるブックトーク	ブックトークのやり方とその効用について理解する。
8	学習指導に生きるポップ	ポップの作成方法とその効用について理解する。
9	教科学習における学校図書館の活用1	国語科における学校図書館の活用について理解する。
10	教科学習における学校図書館の活用2	社会科・理科における学校図書館の活用について理解する。
11	総合的な学習と学校図書館	総合的な学習の時間における学校図書館の活用について理解する。
12	学校図書館と合理的配慮	学校教育における合理的配慮の必要性和学校図書館の役割について理解する。
13	司書教諭と学校図書館司書の役割	学習指導における司書教諭と学校図書館司書の役割と連携について理解する。
14	これからの学校図書館の在り方	先進的な学校図書館の事例について理解する。
15	まとめ	期末テストと解説

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32300		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	算数科教育法		担当者名	前田 一誠			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業は、小学校算数科の指導をする際に求められる様々な能力のなかで、算数科の授業づくりや評価及びそれらの実践に関わる基礎的・基本的な力を身につけることを到達目標とする。そのために、算数教育の目的・目標、算数教育の方法、「A数と計算」「B図形」「C測定・変化と関係」「Dデータの活用」という4つの領域ごとの内容とその指導法、算数教育の評価について講義をする。併せて適宜、算数授業のビデオを用いて授業実践力の理解と育成を目指す。

<授業の到達目標>

①教科書をはじめとする既存教材の意図や展開を把握することができる。②子どもの発達に応じて教材を工夫し、子どもがどのような反応を示すかを具体的に想定した授業を構想し、それらが見えるような指導案を作成することができる。③作成した指導案に基づいて授業を実践する力（評価も含む）基礎的な力を身に付ける。

<授業の方法>

授業の具体を示す資料等（プロジェクター、授業VTR）に基づいて講義を進める。適宜、演習的な課題を課す。課題・レポート（指導案作成など）も課す。タブレットやプログラミング的思考を育む教材等を用いたアクティブ・ラーニングも取り入れる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

教材分析、指導案作成、模擬授業などの演習的な課題を課す。予習：算数科の目標、領域・内容構成、教材探索とその分析、発表準備復習：小テスト、まとめのノート、振り返りレポート

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5（教科の目的・学習内容の理解、基本的かつ現代的な学習指導法の理解と探究）と関連付けられている。子どもの学習状況を把握し、算数科の教科内容を理解した上で、算数教育を実践するための基礎的・基本的素養を育成するための科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

応答などの意欲的な受講 20%、レポート・小テスト 30%、定期試験 50%

<教科書>

編者代表・齋藤昇

『子どもの学びを深める新しい算数科教育法』

東洋館出版社

<参考書>

文部科学省

『小学校学習指導要領解説 算数編』

東洋館出版社田中博史他

『ほめて育てる算数言葉 ～算数授業の言語活動を本当の思考力育成につなぐために～』

文溪堂

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	算数教育の今日的課題	学力問題、興味・関心・意欲の向上等
2	算数教育の目的・目標	算数教育の目的・目標の視点と今日の目標
3	算数科の授業づくり(1)	問題解決的な授業づくりの基本と学習指導案
4	算数科の授業づくり(2)	数学的活動のある授業づくり
5	「A数と計算」領域の指導(1)	整数・小数・分数の指導
6	「A数と計算」領域の指導(2)	加法・減法の指導
7	「A数と計算」領域の指導(3)	乗法・除法、概算と見積りの指導
8	「A数と計算」領域の指導(4)	ICT機器を活用した、プログラミング的思考を育むための教材とその活用
9	「B図形」領域の指導(1)	平面図形、立体図形の指導
10	「B図形」領域の指導(2)	角、図形の軽量（面積、体積）の指導
11	「C測定」領域の指導(1)	長さ、重さ・・・等、量の大きさの比較、量の単位、量の測定の指導
12	「C変化と関係」領域の指導(2)	変化と関係（速さ、割合、比、比例、反比例・・・）の指導
13	「Dデータの活用」領域の指導	表、グラフ、測定値の平均等の指導
14	算数教育の評価	算数科における評価の目的と方法
15	算数教育の特徴ある授業づくり	構成主義的な授業、オープンエンドな授業等

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32305		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	理科教育法		担当者名	平松 茂			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

小学校理科の指導と評価の方法を理解し、学習指導案の作成法を学ぶ。教科書と学習指導要領解説理科編を参照し、観察・実験を伴う授業を設計して、授業実践の方法や留意点を習得する。4～5人の小グループで1～2単元の模擬授業を担当する。指導案や細案を使って模擬授業を行い、評価・改善案点を話し合い、理科の授業実践のための基礎的な知識や技能を身につける。また、新たにGIGAスクール構想にも対応できる技能を習得する。 IPU理科マイスター必修。

<授業の到達目標>

1. 理科の指導と評価方法を理解し、学習指導案を作成して、授業を行う知識技能を身につける。2. 「学習活動」「指導上の留意点及び教師の支援」等指導案作成に必要な知識・技能を習得する。3. 観察実験を伴う模擬授業の準備、実施、評価により授業の基礎的な知識技能を身につける。4. 小学校で理科の授業を準備、デザインし、授業が実施できる知識技能を習得する。5. ICT、デジタル教科書等を効果的に活用しながら授業展開する方法を習得する。

<授業の方法>

1. デジタル教科書、ICT、Google Chrome等を効果的に使いながら講義を進める。2. クラスルームに短い動画を置き、授業イメージ作り、学習指導案作成に役立てる。3. 予備実験、実験・観察を伴う授業のリハーサルを点検しながら授業力を身につけさせる。4. 学生が教師役、児童役と立場を変えながら模擬授業を進め、評価観点を身につけさせる。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

小学校理科の教科書「新編新しい理科」第5、6学年の中から単元を選び、児童が観察、実験する具体的な学習内容を把握する。(1時間程度) 次に、小学校学習指導要領解説理科編を見ながら、学習の目標、学習内容、活動のねらいや留意点を把握して学習指導案を作成する。4～5名のグループで授業の準備に当たるが、分担された作業をするとともに、予備実験や模擬授業のリハーサルに全員で当たり、誰が指名されても授業を担当できる状態まで自主練習する。(週2時間程度×3週)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

自然の事物現象の精妙さ、巧妙さに対する鋭い感性を持ち、小学校理科の教科内容を理解した上で授業を構成し実践するための基礎的な基本的な素養を獲得する機会を提供する。発達段階に合わせた問題解決能力を育成する力量を形成し、教育実習に備える。この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5：情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身につけている。7：子どもの未来の対する強い使命感と責任感を持ち、教師としての成長を目指した生涯学習力を身につけている。と関連づけられている。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

参加意欲 20%、 実験・観察の技能 20%、 模擬授業 30%、 学習指導案 30%、等で評価する。

<教科書>

毛利 衛・黒田玲子 他 (2020)

「新しい理科5」

東京書籍毛利 衛・黒田玲子 他 (2020)

「新しい理科6」

東京書籍文部科学省(2018. 2. 10)小学校学習指導要領 (H29) 解説理科編東洋館出版社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 物の溶け方	小学校理科の概要と授業 理科室 観察
2	理科の授業と坂元理論 植物のからだ	授業の構造 理科の授業と安全 スケッチ
3	理科の授業と評価の方法 ループリック	授業の評価観点、ループリックの作成と活用
4	学習指導案の構造 作成法	学習指導案の構造の理解と作成の手順
5	小学校の授業展開 物の重さくらべ	授業展開の例、予備実験とワークシート
6	模擬授業1 (1グループ) 「呼吸の働き」	学生の模擬授業「小学校理科6年・生命領域」
7	模擬授業2 (1グループ) 「発芽」	学生の模擬授業「小学校理科5年・生命領域」
8	模擬授業3 (2グループ) 「天気の変化」「流水のはたらき」	学生の模擬授業「小学校理科5年・地球領域」
9	模擬授業4 (2グループ) 「地層できるしくみ」「月の形と太陽」	学生の模擬授業「小学校理科6年・地球領域」
10	模擬授業5 (2グループ) 「物の溶け方」「蒸発・再結晶」	学生の模擬授業「小学校理科5年・物質領域」
11	模擬授業6 (2グループ) 「水溶液の性質」「物の燃え方」	学生の模擬授業「小学校理科6年・物質領域」
12	模擬授業7 (2グループ) 「ふりこ」「電流が生み出す力」	学生の模擬授業「小学校理科5年・エネルギー領域」
13	模擬授業8 (2グループ) 「てこ」「プログラミング」	学生の模擬授業「小学校理科6年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
14	模擬授業9 (2グループ) 「音の性質」	学生の模擬授業「小学校理科3年・エネルギー領域」・新学習指導要領への対応
15	まとめ	理科教育の今後の課題

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32308		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	体育科教育法		担当者名	中西 紘士			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

自分の経験を振り返り、体育という教科に対する思い込みの枠組みを崩しながら、体育という教科の特異性と価値を考え、これからの体育のあり方について探求していく。特に、体育の授業を行う前提となる、体育は何をめざすのか（目標論）、体育は何を教えるのか（内容論）、体育ではいかに教えるのか（方法論）の大きく3つの領域について、実践例を基に講義していく。

<授業の到達目標>

1. 「体育科」の意義や目標を理解し、小学校の体育授業を構成する基礎的知識や基本的な考え方を身に付けることができる。2. これからの体育科の在り方について考え、授業をデザインし、実践できる能力を養う。3. 教科内容に即した教材づくりを行うことができる。

<授業の方法>

1. Google Formを活用した小テスト（学習指導要領解説の内容）2. 講義、演習、実技（教員による解説や学生自身に生まれる本質的な問い）3. 省察活動（まとめ、発表）グループごとにPCを活用した学習指導案の作成や教材作りに取り組んでもらう。毎回ではないが実技も伴う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習：教科書や配付資料等を事前に熟読し、講義で扱うテーマについて自己の考えをまとめた上で講義に臨む。学習指導要領に書かれた内容に関する小テストを行う。（毎回1.5時間程度）復習：講義終了後、本時の講義についてのまとめを行い、パソコンでレポートを作成し提出する。（毎回1時間程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマポリシー5（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身につけている。）と関連付けられています。体育科教育に関する幅広い知識を修めるだけでなく、実際に授業を行うために必要な教材づくりや授業力につながる思考力、実践力の育成に向けた科目である。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義、グループワークに臨む意欲・姿勢・態度 20%、レポート、指導案 50%、小テスト 30%

<教科書>

文部科学省（平成29年7月）
 小学校学習指導要領〈平成29年度告示〉解説 体育編
 東洋館出版社木原成一郎他
 改訂版 初等体育科教育の研究
 学術図書

<参考書>

岩田靖（2012）
 体育の教材を創る
 大修館書店

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の概要と授業の進め方
2	「体育」とはどのような教科か	体育の特異性と体育教師に必要なもの
3	学習指導要領の解説①	学習指導要領の歴史の変遷と社会的背景
4	学習指導要領の解説②	体育の現代的課題
5	学習指導要領の解説③	体育科の目標と内容
6	各領域の特性と授業作りのポイント①	「体づくり運動」領域、「表現運動」領域
7	各領域の特性と授業作りのポイント②	「陸上運動」領域、「器械運動」領域
8	各領域の特性と授業作りのポイント③	「ボール運動」領域、「水泳」領域、「保健」領域
9	体育の教材とは	体育における「教材」の概念の理解、典型教材に学ぶ
10	教材づくり	教科内容と教材の関係からみる教材づくりの方法（GIGAスクール構想に伴う1人1台タブレットの活用についても含む）
11	体育授業の基本的な流れ、評価	45分の授業の基本的な考え方、体育科における評価について
12	指導計画と単元計画	指導計画、単元計画の作成の仕方
13	体育の授業計画の作成	単元構造図の作成と1時間の指導案の作成について
14	体育の授業計画の交流	作成した単元や指導案の交流
15	まとめ	これからの「体育」を考える

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	32312		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	図画工作科教育法		担当者名	村上 尚徳			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業では、図画工作科の目標、内容、指導法及び評価について理解するとともに、子どもの視点に立った教材開発・カリキュラム編成の理論と方法を習得する。また、グループによる主体的で対話的な深い学びにつながる活動やICTの活用など、指導法の工夫等も取り入れ、最終的には模擬授業の計画、実施を通して、授業を構築し実践する力の育成を目指す。

<授業の到達目標>

1. 図画工作科における教育目標、育成する資質・能力等を理解し、学習指導要領に示された学習内容について、美術や美術文化などの関連も含めて理解を深めることができる。
2. 学習指導理論や実践例等を踏まえて、子どもの視点に立った教材開発、カリキュラム編成、授業計画の作成、教材機器の活用等と実践方法を習得することができる。

<授業の方法>

1. 資料や事例、製作体験に基づく講義と協議。
2. 表現や鑑賞の体験を基にした学習指導要領における位置付け等の理解。
3. グループによる模擬授業の検討、教材作成、授業の実施（PowerPoint等の活用）、及び全体協議。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業前は、指示された資料を事前に予習したり、準備物（材料、用具等）を準備したりすること（1時間程度）。授業後は、配布された資料を復習したり、授業内に課題が完成しなかった場合は、次回までに完成させること。また、授業内容に応じて、classroomなどでふり返りのレポートを提出すること（1時間程度）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は教育経営学科のディプロマ・ポリシー5（情報機器や教材の活用を含めた学習指導方法の基本とともに、問題解決に向かう論理的・批判的思考力を身に付けている。）と関連付けられています。図画工作科の教科内容等を理解した上で、子どもの発達等の理解に基づいて授業を構築し実践するための授業力を育成することを目指しています。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

作品及びレポート等 40%、定期試験 40%、授業への積極的参加態度 20%

<教科書>

文部科学省（2018）
「小学校学習指導要領解説図画工作編」
日本文教出版

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	図画工作科の意義	図画工作科の意義と課題
2	教科の目標と内容の概要	学習指導要領の構成と内容の理解
3	材料をもとにした造形遊び(1)	共同製作（グループ活動）
4	材料をもとにした造形遊び(2)	「材料を基にした造形遊び」の理解
5	絵や立体、工作に表す(1)	子どもの発達と絵・「絵や立体、工作に表す」の理解
6	絵や立体、工作に表す(2)	絵に関する作品製作1
7	絵や立体、工作に表す(3)	絵に関する作品製作2
8	鑑賞	「鑑賞」の理解と対話による学び（グループ活動）
9	カリキュラムと授業の構想、評価	学習指導と評価
10	学習指導案の理解	学習指導案の書き方
11	教材研究	題材開発、機器の利用、学習指導案の作成（グループ活動）
12	模擬授業(1)	模擬授業の実施と協議(グループ1) ※学生のICT活用
13	模擬授業(2)	模擬授業の実施と協議(グループ2) ※学生のICT活用
14	模擬授業(3)	模擬授業の実施と協議(グループ3) ※学生のICT活用
15	図画工作科で育成する資質・能力と授業の具体について	まとめ

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	53013		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	学校支援ボランティア		担当者名	奥山 優			○		
配当年次	1	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校支援ボランティアとは、学校の教育活動について地域の教育力を生かすため、保護者や地域の人々等がボランティアとして学校をサポートする取り組みであり、近年は学校支援ボランティアとして学生も学校に入り、学習支援等を行っている。ここでは、小・中学校等で行われている学校支援ボランティアの様子を紹介したり、地域の小・中学校に学校支援ボランティアとして入り活動を行ったりすることで、学校支援ボランティアの実際について学ぶ。

<授業の到達目標>

学校支援ボランティアに必要な知識や技能、態度などを身につけ、将来教師として子どもにかかわるための指導力を培うことができるようにする。

<授業の方法>

この授業は、前期および後期の年2回開講し、いずれかを履修することができる。学校支援ボランティアについての講義と、期間中に5回以上延べ15時間の学校支援ボランティアに赴く。ボランティア活動は、通常の授業時間ではなく、学校と都合のよい時間帯を相談の上実施する。活動の記録を日誌として残し、成果と課題をレポートにまとめて最後に発表する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習ボランティアの募集説明会に参加すること、所定の時間ボランティアに行くことが単位取得の必須条件である。予習:事前に学校と十分打ち合わせをした上でボランティアに臨むこと。また、その日のボランティアを通して何を学ぶのかということを確認しておくこと。(30分程度)復習:学校にボランティアに行った日は、活動内容と時間数及びその日の成果や課題となったことを振り返り、記録に残しておくこと。(1時間程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

学校支援ボランティアの在り方について学び、学校に出かけ児童・生徒の学習面や生活面での支援や指導を行うことを通して、教育経営学科のディプロマポリシーの7(子どもの未来に対する強い使命感と責任を持ち、教師としての成長をめざした生涯学習力を身に付けている。)を養うための科目である。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

ボランティア活動への取組みの様子 40%、レポート及び発表の内容 60%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

特に指定なし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	学校支援ボランティアとは	学校支援ボランティアの目的、活動内容等
2	学校支援ボランティアの申し込み	岡山市等の学校支援ボランティアの募集説明会、申し込み手続き等
3	学校支援ボランティアの実際	学校支援ボランティアの具体例、先輩の体験発表等
4	学校支援ボランティアの実習(1)	近隣の小・中学校等でのボランティア活動
5	学校支援ボランティアの実習(2)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
6	学校支援ボランティアの実習(3)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
7	学校支援ボランティアの実習(4)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
8	学校支援ボランティアの実習(5)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
9	学校支援ボランティアの実習(6)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
10	学校支援ボランティアの実習(7)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
11	学校支援ボランティアの実習(8)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
12	学校支援ボランティアの実習(9)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
13	学校支援ボランティアの実習(10)	近隣の小・中学校等でのボランティア体験
14	学校支援ボランティアのまとめ(1)	学校支援ボランティアの実習について学んだことを各自レポートにまとめる。
15	学校支援ボランティアのまとめ(2)	レポートの内容を発表し、成果と課題を共有する。

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	51009		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(小学校)		担当者名	村上尚徳、久田孝、中野隆重、松尾健太郎、前田一誠、坂根清貴、太田昌孝、中西紘士、伊住継行、奥山優、三堀仁、高橋純一、福政武彦、千葉照久、安井正郎			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習の意義と目的について理解を深め、教育実習生としての心構えを養う。教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図る。教育実習の成果と課題を自己評価し、教職を志す者としての資質を向上させる。

<授業の到達目標>

教育実習生としての心構えをもち、教育実習の意義と目的について理解を深めることができる。教職を志す者としての資質を向上させるために、教育実習に向けて、教科学習の授業力向上を図るとともに、教育実習の成果と課題を自己評価することができる。

<授業の方法>

課題や資料配布はGoogleクラスルームで行う。この授業では、講義、指導案作成、模擬授業の準備、実施とその検討、実習録をもとにした振り返りを行う。特に授業の中では、学生による模擬授業を行う中で、授業展開や教具、発問について受講者同士で議論し合いながら授業に関する実践知を獲得できるようにする。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

模擬授業を行う教科・単元に関する資料を収集し、熟読しておく。模擬授業までに、担当教諭に事前指導を受ける。その際、学習指導案も作成しておく。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、教育経営学科のDP4(周囲と良好な人間関係を築き、自己の考えを的確に伝えられるコミュニケーション能力を身に付けている。)及びDP6(高い倫理観と規範意識、自己コントロール力、教師としての職責を果たそうとする真摯な姿勢を身に付けている。)と関連付けられている。教育実習を通して、教育実践の中で現代の教育課題に取り組み、解決できる能力を養う。グローバル社会に対応できる総合的な実践力を育むための科目である。

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

模擬授業の準備(事前指導に取り組む姿勢と態度、学習指導案の作成、教材・教具の準備・・・等) 30%、模擬授業の成績 60%、レポート 10%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習の意義と心構え	
2	教育実習の進め方	
3	研究授業(模擬授業)の方法(1)	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15~20人程度のグループに分かれて行う。
4	研究授業(模擬授業)の方法(2)	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15~20人程度のグループに分かれて行う。
5	研究授業(模擬授業)の方法(3)	教材分析、教科書・補助教材の使い方、板書の仕方※15~20人程度のグループに分かれて行う。
6	研究授業(模擬授業)の方法(4)	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15~20人程度のグループに分かれて行う。
7	研究授業(模擬授業)の方法(5)	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15~20人程度のグループに分かれて行う。
8	研究授業(模擬授業)の方法(6)	教師の言葉遣い、話し方、きき方、机間指導※15~20人程度のグループに分かれて行う。
9	研究授業(模擬授業)の方法(7)	個別学習、グループ学習の進め方※15~20人程度のグループに分かれて行う。
10	研究授業(模擬授業)の方法(8)	個別学習、グループ学習の進め方※15~20人程度のグループに分かれて行う。
11	研究授業(模擬授業)の方法(9)	授業のまとめの仕方※15~20人程度のグループに分かれて行う。
12	研究授業(模擬授業)の方法(10)	ノート、学習プリント(ワークシート)のつくり方と活用の仕方※15~20人程度のグループに分かれて行う。
13	研究授業(模擬授業)の方法(11)	評価について※15~20人程度のグループに分かれて行う。
14	教育実習における表現教育の位置づけ方	児童とのコミュニケーション手段の1つとして、表現活動の設定の仕方を理解する。
15	教育実習の振り返り	教育実習録をもとに、実習の成果と課題を明らかにする。【事後指導】

次世代教育学部教育経営学科小学校教育専攻

科目コード	53011		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習(小学校)		担当者名	村上尚徳、久田孝、中野隆重、松尾健太郎、前田一誠、坂根清貴、太田昌孝、中西紘士、伊住継行、奥山優、梶原洋一、三堀仁、高橋純一、福政武彦、千葉照久、安井正郎			○		
配当年次	4	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

本科目は、教職課程等での講義及び介護体験・教育実習等で身につけた力を総合し、教師に求められる使命感や教育的愛情・人権感覚などの人間性を一層培うために、教職に就く学生の最終授業である。授業概要としては、教員に求められる共通的な資質能力及び実践的指導力の向上を図る。そのために現在までに学んだ教育理論や実習体験等を整理し、履修カルテを最大限に活用することで自分自身の弱点を補完することを目標とした授業であるので、全ての授業に参加することが最低の目標でもある。

<授業の到達目標>

児童に深い愛情を持ち適切な人間関係を築くことができるコミュニケーション能力、発達段階に応じた各教科及び領域の指導力、生徒指導力を最終学年において確かなものとする事ができる。

<授業の方法>

講義やロールプレイ、小グループでの討論に時間をかけ、実践的指導力の向上を図るために、PCを活用した演習形式による学生と教員の双方向での授業展開を行いたい。

<準備学習等(予習・復習)> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

理解度を深めるために、授業計画のテーマに基づき、1年から4年前期までに使用した教科書・レジメ・実習ノートなどを活用して、自分の考えをまとめておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法> ※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

出席 15%、活動・学習の状況 60%、課題レポート等 25% 欠席は特別な理由がない限り認めない。公欠も含めて事前に欠席に連絡をすること。ルールに違反した場合は、単位の修得ができず、免許を取得できなくなる。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	ガイダンス	ガイダンス
2	学校教育について(1)	学級経営
3	学校教育について(2)	教員資質能力向上
4	学校教育について(3)	児童指導など
5	子どもについての理解(1)	学級づくりのコツ(1)
6	子どもについての理解(2)	学級づくりのコツ(2)
7	子どもについての理解(3)	不登校・特別支援を要する児童生徒の支援・援助など
8	教育実践(1)	授業を創るということ A (各教科指導)
9	教育実践(2)	授業を創るということ B (各教科指導)
10	教育実践(3)	授業を創るということ C (各教科指導)
11	他者との協力・コミュニケーション(1)	支援ボランティアについて
12	他者との協力・コミュニケーション(2)	気持ちに寄りそう場面指導
13	保護者との協力関係づくりについて	保護者との協力関係づくりについて
14	表現教育	表現教育
15	まとめ	まとめ